

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1962号 2009年03月09日(月)

《 Where is he.....Mr.Geither ? 》

先週一週間の市場を見ていて非常に奇異に感じたのは、あれだけ金融株が売られ、それを受けて世界中の株が落ちたのに、財務長官であるガイトナー (Geithner) という単語が殆ど聞かれなかったことです。私が気付かなかっただけかも知れない。しかし筆者はどちらかと言えばアメリカの新聞も CNN も良く目を通す方です。しかし「彼の新たな動き」を報じる記事や VTR を目にした記憶がない。バーナンキは直近では7日に喋っています。これは FRB の HP に載っている。しかし米財務省のサイトを見てもガイトナーが「最近の出来事」で取り上げられているのは3月4日の上院金融委員会での証言だけ。

ガイトナーの前任者であるポールソンは、仕事を全うしたかどうかは別にして、何かあれば必ず記者の前に出てきて、「こうする、ああする」と述べた。アジア市場のオープンする直前に米政府の策を発表したこともしばしばである。しかし、ダウが7000ドルを割れ、世界の金融市場が再び動揺の様相を示しても、ガイトナーの「ガ」の字も市場関係者の前にあまり登場しない。

善意で考えれば、「金融安定化策」の細部の詰めまでしているのでしょうか。とにかくアメリカ最大の商業銀行であるシティの株価が一時的にせよ1ドルを割れるような市場不安定期にあって、財務長官が何もしていない、何も考えていないということはありません。好意的に考えれば、今週末の13、14日に開かれるロンドンでの20カ国・地域(G20)財務省・中央銀行総裁会議を控えて、米金融安定化策の最後の詰めをしている可能性もある。とすれば、今週発表という運びになる。不動産の値付けなど難しい問題が残っている。

いずれにせよ、今のところ、またオバマ政権の中であってガイトナー財務長官の存在感は薄い。その薄さが、アメリカにおける金融安定化策の欠如に繋がり、それが市場の不安感を強め、それが株価を下げ、消費に打撃になり、そして内需の不振とそれに伴う雇用情勢の悪化に繋がっているとも思える。それはいつか、「オバマ批判」に繋がりがかねない展開です。今の雇用情勢はアメリカの指導者にとっては危機的です。

どのくらい危機的か。米労働省が先週末に発表した同国2月の雇用統計は、非農業部門の就業者数の減少幅が65万1000人となった。ほぼ予想通りの数字とはいえ、仮にこの雇用減が一年間(12ヶ月)続いたら年間の雇用減は781万2000人に達するという恐ろしい数字である。筆者の記憶だと、アメリカの雇用は昨年11月から既に4ヶ月連続の5

0万以上の減少で、特に直近3ヶ月はいずれも65万(改訂後の数字)に近い減少となっている。リーマン・ショック以降の就業者数の減少は328万5000人となっているとのアメリカの新聞記事もあった。

業種別に見ても、各業界での雇用の減少は目を覆うものがある。製造業の雇用の減少は16万8000人に達したし、もっと大きな数字となったのはサービス業の37万5000人。これまでサービス業は米国における雇用の最大の創出源だったので、このサービスにおける雇用の減少は、今のアメリカで雇用の受け皿がないことを意味する。サービスの中では小売が4万人の減少、建設が10万4000人の減少。

政治的に重要なのは失業率である。2月は8.1%と1月の7.6%から0.5パーセント・ポイントも上昇した。危険な数字である。今のところオバマ政権に対する支持率は高く、まだ期待もある。しかし8%を超えるような、そして二桁に接近する失業率が続けば、ガイトナーばかりでなく、国民のオバマ批判は強まるだろう。今週の金融市場、株式市場は不安定な動きが続く。ただし株式市場では相場のレベルは下がっているので、反発の局面もあろう。

《 waiting for turbulences 》

金融市場の動揺、株式市場の下落傾向に反して、外国為替市場では高値からの反落はあったものの、ドルはまだ強さを残した動きとなっている。筆者の記憶では96円台があったものの、その後のドルの反発力は強い。今朝も98円台だ。これは今の金融不安の世界では基本的にドルが不足しているという事情がありそうだ。世界的にもそうだし、世界各国の中では一番潤沢にドルをもっていそうな日本でさえ、財務省が国際協力銀行に対して日本企業の海外でのドル不足に対応して外貨準備から50億ドルを貸し出すことを発表した。このニュースは海外でも大きく報じられた。

こうした状況の中では、ドル需要の基本的な強さは維持されると考える。ただし今の環境を考えれば、ドルが上値を追うという展開も難しいのではないかと。国内で雇用を急速に落としている国の通貨が、他の国との比較という面があることは確かながら、一方的に通貨を強くするという事は難しいし、あったとしてもその通貨の高値維持は難しい。

ドルがこのところ上値を追っていた状況を考えれば、期末越えの先を見るとドルの需給は変わると考えることもできる。当面は、G20でアメリカがどのような政策を打ち出すか、という点に焦点を合わせながらの展開となろう。

今週の主な予定は以下の通りです。

03月09日(月曜日)

2月マネーストック

1月国際収支

2月銀行貸出動向

2月景気ウォッチャー調査

	2 月企業倒産件数 BIS 総裁会議
0 3月10日(火曜日)	1 月景気動向指数(速報) 1 月特定サービス産業動態(速報) 2 月工作機械受注 米 1 月卸売り在庫 中国 2 月生産者物価 中国 2 月購買価格指数 インド市場休場
0 3月11日(水曜日)	1 月機械受注 米 2 月財政収支 中国 2 月貿易収支
0 3月12日(木曜日)	10-12 月 GDP(2 次速報) 米 2 月小売売上高 米 1 月企業在庫 中国 2 月小売売上高 中国 2 月鉱工業生産 ニュージーランド、韓国中銀金融政策金利発表
0 3月13日(金曜日)	G20(ロンドン) 1 月鉱工業生産(確報)・設備稼働率 2 月消費動向調査 先物オプション SQ 米 1 月貿易収支 3 月ミシガン大学消費者信頼感指数(速報)

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。今週からアメリカなど北米も夏時間に移るなど、冬から春への切り替えの時期にあることが感じられる週末だったように思います。天候もそういう感じだった。「まだ寒いな」とは思う一方で、日差しは明らかに春になってきた。

土曜日は水戸に行きました。弘道館とか偕楽園とか今まで何回も水戸に行っても実際には行けなかったところに時間を見つけて。徳川御三家の中で水戸はどちらかと言えば存在感はあったが将軍を出すことは一橋家を經由して出た徳川慶喜以外はない、という水戸の人の話が印象的でした。まあ御三家の中では「ままっ子」扱いの面があった。藩の財政も厳しかったようです。

しかし弘道館のような勉学の場を設け、日本中から顕学を招き、国のあり方を考える一方

で、名君と言われる徳川斉昭のような藩主が領民を楽しませる偕楽園のような公園を作る
といった施策も講じている。それが今に残っているというのが重要だと思う。私は東門から
入りましたが、実に大勢の方が梅を楽しんでいた。今週と来週が一番の見頃だそうです。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記
したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情
報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成
時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたもの
ではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》